

OGUU

Vol.13 February 2022
Published by 小国高校1年生

高校生が発信する小国の魅力いっぱいマガジン！
小国町探検 編

小国に浸ろう。



時間を忘れるくらい充実していました。

奥川入荘で横山さんたちとピザ作りと一緒にしたこと、小国町南部に対するイメージがめっちゃくちや変わりました！

森しかないって思ってたけれど、自給自足で楽しく過ごしている格好いい大人がいる。

道なさそうって思ってたけれど、ジブリみたいな世界観が広がっている。若者いなさそうって思ってたけれど、奥川入荘は外国からも若者が集まってくるような素敵な宿でした。



ジブリのパン職人が

現実には？！

幸せのピザ



なぜこのような秘境に人々が集まってくるのか、小国町探検をして少し分かった気がします。奥川入荘は人々の交流の場になっていきます。ここに来れば日本の、そして小国の文化や生活を体験することが出来ます。ピザ1つ作るのにも、それぞれ材料を採って持ち寄って、みんなで手作り。私たちはピザを作る過程で、ワイワイしながら、ヨダレを我慢しながら、材料を奪い合いながら、幸せについて語りました。そんな体験や空間に惹かれて、みんなやってくるのだと思います。私たちもまた行きたいです！



幸せのかたち

「お金と名誉とやりたいこと」

奥川入荘で「幸せとは何か」について話しました。議論する前、幸せとはお金や地位、名誉といったわかりやすいものから得られると思っていました。「幸せの形は、どれだけ自分がやりたいことをやれているかということ」この考えに共感するとともに、やりたいことをするためには人との関わりが大切だと思いました。

私たちは、明確にやりたいことが決まっています。自分の幸せを見つけるために、ほかの地域や国の文化を学び、人と関わって生きていこうと思うようになりました。



高校生、 町のために働きます！



そのあなた！高校生にとって
幻のカレー、今食べなくていつ食べる？

茶飯美のカレーは、平日のランチのときにのみ提供されるので、高校生はほとんど食べられません。とてもドキドキしてお店に入りました。食べたポークカレーは、お肉が大きくて、満足感がありました。食事の後、店主の新野美香さんにインタビューをしました。

インタビューの中で、「お店を運営していて大変だと感じることは何ですか？」とお聞きしたところ、「日々楽しくやっているから大変だと感じることはない。」とおっしゃっていました。これを聞いて、やはり何事も楽しむことが大切だと思いました。また、楽しいと思えることを自分の職業にしていきたいと思いました。

アスモのブックカフェは、簡素で、利用者が少なく活気がないことが課題になっています。そこで、私たちは本のポップを作った。子どもたちが読んでもらおうと考えました。子どもたちが興味を持ちそうな本を選び、その本を手につけてくれるように、カラフルなイラストを描き、ポップなポップを作りました。本棚にポップを飾ったことで、読みやすい雰囲気もつくれた上、前よりも色がついて、可愛らしくなりました。今回、町のために働いてみて、作業は非常に時間がかかることがわかりました。そして、いつも町のためにいろいろな工夫をしてくださっている人たちがどれだけ皆のために貢献しているのかが分かりました。私たちも、町のために私たちができることはないかということを常に考えていきたいと思っています。



日常茶飯美のポークカレー

アスモでPOPを作ろう！

ハジメテノコトバカリ



クッキーにそこら辺の花
ぶっ込むの大丈夫ぞ？
、田舎ならではの菓子作り、

叶水におしゃれなおやつ屋さん『naebaco』があると知って行ってみたくなり、川崎
ひかりさんの元を訪ね、「お手伝いしたいです！」とお願いました。花やミントを
近所に摘みに行くことになって「クッキーに入れるの？」とびっくり。自分たちが作っ
たクッキーを食べてみると、とても美味しく花が鮮やかで素敵なトッピングになりました。
た。教えてもらったことをもとに家族や友達に作ってあげたいと思いました。

出来たり出来なかったり、
セドリックさんと作るおいしいそば

『お食事処ほたる』でスイス出身のセドリックさんにそば打ちを教えてもらいました。
最初見た時は、少し練習すれば出来ると思っていましたが、想像以上に難しかったです。
特に麺を打つのが大変でした。蕎麦打ちの体験を通して、技術を身につけるためには時間
がとも必要だという事がわかりました。失敗を恐れず、時間をかけて、取り組むことを
大切にしていきます。

生き物と共に生きる
、自給自足生活、

訪問する前、基督教独立学園は未知の学園でした。実際に学園に行ってみると、動
物・虫・植物に囲まれた自給自足の生活を送りながら、学習をする高校でした。動物は
自分たちで育てて、出荷まで行うそうです。部活動の中には、野菜を育てる部・パンを
作る部などがあり、初めて見るものばかりで驚きました。今後、私たちも自給自足の生
活をやってみて、畑作りの大変さを体験したいと思います。



おいしいご飯 楽しいじじばば

今までおじいちゃんおばあちゃんと触れ合う機会が少なかった

ため、訪れる前はうまく話せるか不安でいっぱいでした。

でも、おじいちゃん・おばあちゃんはたくさんさんの料理を私たちに振る舞ってくれました。お昼と一緒に食べて楽しい時間を過ごしました。

お昼ご飯タイムや輪投げ、折り紙と一緒にやってみて、皆さんのパワーや、温もりを感じることができました。おじいちゃん・おばあちゃんにとって、今この場所が青春になっているのかな

とも思いました。北部のあさひサロンだけでなく、町にある施設にも訪問し、私たち高校生が皆さんに笑顔届けたいと思いました。



読めるわけねーよ 渡れるわけねーよ 針生平！

針生平（はんなりだいら）最大の難所、地獄の吊り橋。

その橋は、ギシギシときしみ、本当に渡れるかわからない斜めの板。

しかし、吊り橋を渡り、見る景色はとても綺麗で、渡って良かったと感じました。

この体験から、勇気を出すことと、何事にも挑戦することの大切さを学ぶことができました。



the 北部 ～知られざる真実～



元 保育園
サロ ン

マタギの儀式 、神に一礼、

私たちのマタギについての知識といえば「熊を狩る」くらいでした。

実際に山に入って、目に止まったのは小さな祠（ほこら）。

マタギの蛭原さんに引率いただいて、この祠には山の神様がいて、マタギの人たちにとって山はとても神聖な場所なのだとなりました。

自分の住む町でありながら、思っていた以上に知らなかったことがたくさんあり、古くから続くマタギの歴史を多くの人に伝えたいと思いました。



マタギ・蛭原一平さん



「社会の一員」「自然の一部」であることを実感する

仲間と自分を発見する

自分は変わることができることを実感できる

生きる力を身につける

自分のやりたいを行動に移す場

自分と世界を知る

「つながり」から生まれるエネルギーを体感できる

とにかく地域に浸る

ヒトモノコトとの出会いの場

“白い森未来探究学”の略称

小国高校の「もりたん」 何を学ぶ授業なのか？

新たな自分を見つけれられる

とにかくやってみる行動力をつける

ありたい姿や未来を創造する力を身につける

思考力を身につける

本当に大切なことを学ぶ

自分の好きなことをトコトンやる

地域を舞台に社会や世界を学ぶ

これからの人生で大切なことを学ぶ

1 学年 地域文化学

地域のカッコイイ大人に出会う
自己の興味関心を高める



2 学年 地域実践学

一人一人が課題を設定
地域に出てマイプロジェクトを実施



3 学年 地域構想学

今までの実践から新たな提案
自分の将来とつなげる

